

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100602		
法人名	有限会社ウェルネス		
事業所名	グループホームあいこく		
所在地	〒085-0058 北海道釧路市愛国東1丁目27番8号 (電話) 0154-37-4165		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】 (平成20年9月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 14人, 非常勤 6人, 常勤換算	12.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	16,000~26,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1ヶ月 40,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月9日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78.9 歳	最低 61 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さい内科クリニック 釧央脳神経外科病院 島津歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営者、管理者、職員は、共に理念を共有し、介護の質の向上を積極的に目指している。日常的に、直接介護に当たる以外の職員も配置し、毎日の散歩や日光浴・銭湯・山菜採り・お墓参り・初詣・コンサートなど、利用者が行きたい場所へ行く等の柔軟な支援を行っており、本人の思いを大切にしながら実現するよう努力している。また、地域との関わりを大切にしており、防災や行事などへの参加・協力を地域から得ているほか、日常的にボランティアの来訪があるなど、関係を深めている。職員の資格取得の支援を法人として行っているとともに、研修にも熱心に取り組んでおり、札幌等で行われる研修にも、多くの職員が参加している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回評価時には3ヶ月毎であった預かり金出納の報告については、毎月1回行っている。また、重度化や終末期のあり方についても話し合い、方針を定め、情報を共有している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価には全員で取り組み、今後の更なる改善に向けて、話し合いをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に行っている。近隣の2つの町内会からも代表者の出席があり、事業所の今年の夏祭りには、昨年にも増して積極的・主体的に地域住民が関わり、また、避難訓練にも町内会員が自主的に関わっている。また、事故報告・外部評価などについても情報を開示している。全ての家族に会議開催の案内を出し、参加できない家族には別途報告をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>利用開始時には、事業所内の苦情相談窓口を知らせている。窓口担当者が不在の場合には、速やかに事業所に報告される仕組みができています。運営推進会議での参加家族の意見等は、全ての家族に知らせている。また、家族来訪時には、相談等をしやすいように職員は声をかけて話をしたり、利用者の様子を知らせるなどしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>運営推進会議等を通して、事業所への理解を進めているほか、事業所の除雪機で近所の除雪を行ったり、町内会のゴミ拾い・ラジオ体操等の行事にも、積極的に参加している。また、犬の散歩や毎日の散歩時などにも交流に努めており、近隣住民から山菜を差し入れてもらったり、畑の草取りや話し相手などのボランティアで来訪する住民も増えている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を職員が話し合っつており、地域の中で暮らし続けることへの支援を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	研修等で再確認をするだけでなく、カンファレンス等で、理念に沿った介護ができているかを日々確認している。また、職員個人に関する自己評価の項目の中にも、理念についての項目を入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所からの地域への働きかけだけではなく、地域住民からの積極的な関わりも増えている。畑の草取りや対話のボランティアが来訪するほか、毎日住民が遊びに訪れたり、山菜の差し入れがあるなど、日常的な交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で話し合いをしている。評価への取り組みを通し、更なる改善につなげるよう積極的に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、地域住民が事業所の夏祭りや避難訓練などに積極的に参加している。外部評価の結果や事故事例なども包み隠さず報告し、意見を聴いている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や家族会の議事報告、様々な相談・事故報告などで、度々担当者を訪問し、働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度、「あいこく新聞」と預かり金の出納を家族に送付し報告をしている。利用者の健康状態等の変化時には、電話で報告するとともに、家族の面会時には、声をかけて利用者の様子を伝えるようにしている。職員の異動についても、写真付きで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明らかにしているほか、苦情・相談を匿名でできるような用紙を家族に郵送し、事業所から家族への相談等にも活用している。運営推進会議の案内や議事録は、全ての家族に送り、意見を聴くなどしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少ない。異動や離職等により新人職員が入るときには、最初に研修を行っている。新人職員は、離職する職員と重複して勤務し、その間に仕事や利用者慣れよう配慮している。職員数が十分であり馴染みの職員が多いことで、利用者のダメージ予防に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修実施要項があり、それに沿って実践している。毎月のカンファレンス後には、内部研修を行っている。また、市内だけではなく、札幌等で行われる外部の研修にも多くの職員が参加し、他の職員にも内容の周知を図っている。資格取得を奨励しており、奨学金制度もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、毎年交換研修を行っている。近隣のグループホームや小規模多機能事業所と、行事を通して行き来などもしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所へ見学に来てもらうとともに、家族との連絡を密にしている。何回か事業所を訪れ一緒にお茶を飲んだりおしゃべりをしてから利用開始を決めるなど、本人も納得して利用を開始できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗い、テーブル拭き、洗濯物干し、料理の下ごしらえ、掃除、ぞうきん縫い、編み物、畑でできた野菜の収穫などを、職員は利用者と一緒にしながら、様々なことを教えてもらったり支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他施設に入所中の配偶者に会いに行ったり、通院の帰りに外食をしたり、コンサート・銭湯・買い物などへの日常的な外出をはじめ、初詣・山菜採り・お墓参り等の季節の行事への外出など、一人ひとりの希望を把握して支援している。希望等の表出が難しい利用者にも、アセスメントに基づいて検討し声かけをしながら実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人との会話の中から課題などを見つけて検討するとともに、家族の介護計画に対する希望も確かめ、アセスメントに基づき介護支援専門員の適切な監理の下で、担当職員が中心になり意見等を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しを行うとともに、退院後などの状況変化に応じて、その都度、定期的な見直しと同様に必要な関係者と話し合い、計画をつくっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	直接介護に当たる以外の職員を配置する日を設けており、利用者一人ひとりの希望に応じて、馴染みの美容室や他施設に入所中の配偶者への面会、近親者宅、教会のミサ、通院等の外出などの、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を利用する利用者もいるほか、往診・訪問看護もあり、その都度適切な医療が受けられる。往診時に利用者の状態に変化があれば、医師から直接家族に電話をするなどしており、利用者が安心して過ごせるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員や家族は話し合い、方針を共有している。医師との連携も密に行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守ることを確認し合っている。プライバシー保護に関する研修も行い、利用者の名前を記録に載せるときにはイニシャルにするなどしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、起きる時間や食事にかかる時間など、それぞれの希望に沿うようにしている。利用者のその日に行きたい場所等に一緒に行ったり、やりたいことを支援するための勤務者がいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけなど、利用者の力を活かしながら、職員と利用者が一緒に行っている。また、一緒に収穫した野菜を食材に使うなど、季節感や利用者の希望を食事に採り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っており、なるべく利用者の希望に沿って入れるようにしている。銭湯に行くことを希望する利用者には、職員と一緒に行くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な利用者に衣類の繕いを頼んだり、畑作物の収穫や野菜の下ごしらえ等と一緒にやるなど、利用者が張り合いをもてるよう工夫している。また、散歩・編み物・五目並べ・パズル・鳩のエサやりなどの、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩・日光浴・畑作物の収穫・犬の散歩等のほか、ドライブ・山菜採り・山ブドウ狩りなど、日常的に利用者の希望に沿った外出ができるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修でも取り上げるなどして、職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、夜勤者が一人になる時間帯以外は、鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議でも話し合いを行っており、町内の住民も積極的に関わっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	およそのカロリー計算をし栄養バランスを考えながら、好みや季節感も採り入れて献立をたてている。水分制限のある利用者に対しては、職員が水分量を量るなど、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、鉢植えや手作りの季節の飾りを置くほか、居間では虫かごでスズムシを孵化させ飼うなど、季節感を採り入れている。また、空気清浄機を置くとともに、トイレを増設したりテーブルの配置に考慮するなど、利用者の状態に合わせ、過ごしやすように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇・位牌・タンスなどを、それぞれ持ち込んでいる。		

※ は、重点項目。